

Title	カリフォルニア州におけるアクレディテーションとチャーター・スクール：教育の質の保証と多様性の確保の試み
Author	滝沢, 潤
Citation	教育学論集. 36 卷, p.64-67.
Issue Date	2010-09
ISSN	0288-4909
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学大学院文学研究科人間行動学専攻・教育学専修
Description	

Placed on: 大阪市立大学学術機関リポジトリ

Placed on: Osaka City University Repository

研究情報

カリフォルニア州における アクレディテーションとチャーター・スクール -教育の質の保障と多様性の確保の試み-

Accreditation and Charter School in California
: Securing Quality and Diversity in Education

滝沢 潤
Jun TAKIZAWA

概要：カリフォルニア州における学校評価・認証制度であるアクレディテーションとチャーター・スクールにおける言語マイノリティの教育保障に関する調査の報告である。アメリカ公教育における教育の質の保障と多様性の確保の取り組みにおける「民」の役割は、今後の重要な研究課題になると考えられる。

はじめに

筆者は、2010年1月16日～24日（9日間）、2月28日～3月7日（8日間）の2度、アメリカ合衆国・カリフォルニア州で調査を行った。1月の調査は、共同科研「学校評価システムの展開に関する実証的研究」（研究代表者：福本みちよ）の一環として、アメリカの学校評価・認証制度であるアクレディテーションの実施状況調査をカリフォルニア州サンフランシスコ市で行ったものである。3月の調査は、個人科研「カリフォルニア州における言語マイノリティ教育の多様性と質の確保に関する研究」（若手研究（B）研究代表者：滝沢潤、平成20・21・22年度）の2年目の調査であり、同州サクラメント市で実施したものである。

1 アクレディテーションの実施状況調査

現在、日本では、学校の自己評価と学校関係者評価が法制化され、2010年7月に第三者評価に関して「学校評価ガイドライン」が改訂された。こうした現状を踏まえ、今後、日本において学校評価、とくに第三者

評価を推進する場合の示唆を与えるために行われたのが1月のアクレディテーションの実施状況調査である。

表1 アクレディテーションに関する訪問調査の概要

訪問日	訪問先	応対者
1/18	Western Association for Schools and Colleges (WASC)	David Brown 事務局長
1/19	San Francisco Unified School District	Janet Schultz エグゼクティブ・ ディレクター
1/20	George Washington High School	Ericka Lovrin 校長
1/20	Galileo High School	Zoe Duskin 校長補佐
1/21	Life Learning Academy (チャーター・スクール)	Craig Miller 副校長 Joanne da Luz アカデミック・ ディレクター

調査は、表1に示したように、アクレディテーション機関である西部地域認定協会

(WASC)、アクレディテーションをうけているサンフランシスコ市内の高校3校(チャーター・スクール1校を含む)、サンフランシスコ統合学区を訪問し、担当者へのインタビューと資料の提供を受けた。

アメリカのアクレディテーションとは、「地域認定協会をはじめ州教育局などの任意または行政などの公的機関が独自に、または共同によって、望ましい教育の水準、改善を総合的にはかるために、合意にもとづいて開発した客観的な基準に照らして当該教育プログラムや機関(学区のオフィスおよびその学校)を公的に認定する過程である」とされる(中留武昭『アメリカの学校評価に関する理論的・実証的研究』第一法規、1994年、9頁)。

アクレディテーションは、アメリカの各地域を担当する6つの地域認定協会によって行われている。カリフォルニア州は、Western Association for Schools and Colleges (WASC)の管轄であり、ハワイ州、グアム、東アジアおよび太平洋地域のアメリカン・スクールやインターナショナル・スクールなどもその管轄に含まれる。

WASCは、アクレディテーションの目的を、各学校が、質の高い教育機関であることを認定するとともに、自己改善(学校改善)を継続的に行っていることを証明することであるとしている。それら教育の質や学校改善では、児童・生徒の学習改善と学習におけるパフォーマンス(学力)の向上が最重要視される。

アクレディテーションのプロセスは、自己評価→訪問評価・評価報告→学校認証・学校改善の継続の3つのステップが一つのサイクルとなっている。このサイクルは、通常6年であるが、その期間が、1年、2年、3年あるいは非認証となる場合もある。

各学校がアクレディテーションを受けるには、スタンダード(基準)を満たすことが求められている。WASCのアクレディテーシ

ン基準は、以下の4領域からなる。①児童・生徒の学習のための組織、②カリキュラムと教育、③児童・生徒の支援と学力向上、④教育資源マネジメントと開発、である。それぞれの領域は、具体的な項目に分類されている。①は、学校目標、ガバナンス、学校リーダーシップ、スタッフ、学校環境、児童・生徒の成績向上の報告、学校改善プログラム、②は、児童・生徒の学習内容、学習方法、評価方法、③は、児童・生徒の関与、保護者および地域の参加、④は、教育資源およびその計画、である。

調査の結果、明らかになった主な事項をあげれば以下の通りである。

- ・ 第三者評価としての訪問評価の評価員(主に他校の校長、教員)はボランティアなため、その確保は容易ではなく、特に現在の不況下において状況がきびしくなっている。しかし、評価員としての経験が自校の学校改善に非常に良い影響がある。

- ・ アメリカで重視されている教育のアカウンタビリティは、アクレディテーションと同様、生徒のアチーブメント(学力)を重視するが、アカウンタビリティはあくまでも結果の評価であり、そのプロセスを問うものではない。アクレディテーションはWASCの学校経営に関する多面的な規準にしたがって、学校経営の質が評価され、その規準に照らして改善状況が継続的に評価される。

- ・ チャーター・スクールは、教育の結果責任(アカウンタビリティ)を求められると同時に、教育の目的、内容、方法において広範な学校裁量(学校経営の自律性)を認められるが、アクレディテーションという基準にもとづく学校評価によってそうした学校裁量が制限されるようなことはない。ただし、通常とは異なる独自の教育実践をアクレディテーションの規準に合わせて評価する手間はあ

- ・ チャーター・スクールにとってアクレディ

ーションはとかく日々の課題に追われやすい状況に長期的な学校経営の視点を与えてくれる。

2 チャーター・スクールによる言語マイノリティの教育保障に関する訪問調査

全米で最大規模の移民を受け入れるカリフォルニア州は、英語のみの授業を受けるためには十分な英語能力を持っていないと認定された English Learner (EL) が約 155 万人(全児童・生徒の 24.7%) いる。こうした英語を第一言語としない言語マイノリティの教育保障は、カリフォルニア州のみならずアメリカ公教育の大きな争点となってきた。本調査の目的は、公立学校でのバイリンガル教育(言語マイノリティの第一言語を用いた教育)を事実上廃止した州民投票・提案 227 以後の言語マイノリティ教育において、チャーター・スクール(Charter School: CS)における双方向スペイン語・イマージョン(Two-way Spanish Immersion: TWSI)プログラムの実施状況について、特に専門的な支援組織の役割を明らかにすることである。

調査は、表2に示すように、TWSIプログラムを実施している2つのCSと、CSを専門的な立場から支援しているカリフォルニア州立大学、カリフォルニア・チャーター・スクール協会を訪問し、関係者へのインタビューを行うとともに、関連資料の提供を受けた。

カリフォルニア州のCSは、児童・生徒の学習を改善すること、通常とは異なる、革新的な教育方法を奨励すること、児童・生徒の測定可能な教育成果に対してアカウンタビリティを果たし、規制に基づくものからパフォーマンスに基づくアカウンタビリティへと移行する手段を学校に与えること、などを目的とした独自の統治機構と高い自律性を有するとともにアカウンタビリティが求められる選択制の公立学校である。

表2 チャーター・スクールによる言語マイノリティの教育保障に関する訪問調査の概要

訪問日	訪問先	応対者
3/1	Bowling Green Elementary School	Elizabeth Aguirre 校長
3/2-4	California Charter School Association Annual Conference	
3/3	Language Academy of Sacramento	Eduardo de León 副校長
3/4	California Charter School Association	Laura A. Keer 地域ディレクター
3/5	California State University of Sacramento (SAC)	José Cintrón 教授 Margarita Berta Ávila 准教授 Sue Baker 准教授

また、本調査が注目した双方向スペイン語・イマージョン(TWSI)プログラムは、プログラムの参加者が英語話者(言語マジョリティ)と非英語話者(言語マイノリティ)からなり、言語マジョリティと言語マイノリティがお互いをモデルとし、尊重しあいながら学ぶことを通じて、両者がバイリンガル・バイリテラルとなることを目的とするものである。これは、提案227とは全く異なる理念に基づくプログラムである。



Language Academy of Sacramento の授業風景

訪問した Language Academy of Sacramento (LAS) は、現在も校舎の一部と校庭を共有する Fruit Ridge 小学校のオルタナティブ・プログラムとして TWSI プログラムをスタートさせ、その後、CS に移行した K-8 の学校であり、サクラメント市で初の

TW SI プログラムを実施する CS でもある。カリフォルニア州では、上述の提案 227 の可決と州および連邦のアカウントビリティ政策の推進のなかで、英語と英語による学力保障を求められている。特に、CS は学校の存廃に関わって児童・生徒の学力保障が求められる。こうした状況のなかで、LAS は、教員の専門性向上と保護者や地域の支持のもとで学校を創設し、その教育成果が認められチャーターを更新している。LAS がこうした成果を果たす上で、その創設時から現在に至るまで教育の専門家として支援しているのが、カリフォルニア州立大学サクラメント校の多文化・バイリンガル教育学部（通称 SAC）の教授たちと、カリフォルニア・チャーター・スクール協会（CCSA）である。

SAC の Cintrón 教授らは、LAS の学校理事会の理事として、あるいは、継続的な教員研修、児童・生徒の指導を通じて LAS の学校経営、TW SI プログラムの実施を専門的な立場から支援している。また、LAS の Quadros 校長、León 副校長をはじめ多くの教員が SAC の卒業生であり、SAC の学生は、LAS で教育実習を行っている。このような関係は、LAS の側から見れば、教員の専門性向上および CS の人事上の裁量権を生かした人材確保を可能とするものであり、SAC の側から見れば、教員養成のまたとない機会ともなっている。

また、CCSA は、カリフォルニア州の CS 関係者が加盟し、運営されている CS の支援団体である。カリフォルニア州の CS には、独立型と従属型と呼ばれるものがあり、LAS は独立型 CS である。独立型 CS は上述のように人事権を有する点で従属型 CS よりさらに高い自律性を保持するが、反面、人事を含め学校経営のほとんどすべてを自前でやりくりしなければならない。CS はこうした高度な自律性が制度上担保されているが、これを実質的に保障する大きな役割を果たしている

のが CCSA である。CCSA は CS の創設から運営、チャーターの更新に関わる法的、財務上の支援、州議会等への要望など広範な支援を行っている。今回の調査では、CCSA の年次大会に参加し、CS の支援にかかわる団体、企業の広がりを十分実感することができた。年次大会の会場の規模、参加者数、スポンサーやさまざまなサービスを提供するベンダーの多さから、CS が特定の学校制度を意味するだけではなくそれが「ムーブメント」であること、そしてすでに CS 市場とも呼べる一つの市場を形成していることが強く実感された。



California Charter School Association Annual Conference の会場風景

3 むすび

以上の2度の調査は、異なる研究関心から行われたものである。しかし、いずれも、多様性を重視するアメリカ公教育において、教育の「質」（その内実が問われなければならない）の保障との両立をめざす取り組みであると言えるだろう。その両立の際に、いわゆる「官」に依存するのではなく、当事者自らがその責任を引き受け、積極的に役割を果たしていく「民」のあり方は、学ぶべきことが多いように感じられた。